

指導の手引き 12. スポーツ (3)

swimming	最初の swi- にアクセント。	水泳
英語らしい音を出すコツ	sとwをしっかりつなげて発音する。	
文法的な注意事項	競技名は数えないので、a を付けることはない。	
文化的な情報、応用表現など	ほかの -ingで終わるスポーツと同様、元は動詞である。play は使わず Do you swim this summer? 「今の夏は泳ぐ？」のように言う。	

table tennis	最初の ta- にアクセント。	卓球
英語らしい音を出すコツ	table は「テー」と伸ばすのでなく「ティ」。-ble は日本語の「る」のように舌先を弾くのではなく、舌の先を上歯の裏にしっかり押しつけたまま、暗い「ウ」のような音になり「ティブゥ」のように聞こえる。	
文法的な注意事項	競技名は数えないので、a を付けることはない。	
文化的な情報、応用表現など	table tennis もほかの球技と同様に play を使う。	

tennis	最初の te- にアクセント。	テニス
英語らしい音を出すコツ	語頭のte-を力強く吐き出すように発音する。	
文法的な注意事項	競技名は数えないので、a を付けることはない。	
文化的な情報、応用表現など	tennis もほかの球技と同様に play を使う。	

track and field	track と field の両方にアクセント。	陸上競技
英語らしい音を出すコツ	and はアクセントなしで軽く、en か n ぐらいのつもりで発音する。直前の track と切らずに「トラクン…」と言う。	
文法的な注意事項	競技名は数えないので、a を付けることはない。	
文化的な情報、応用表現など	trackは走る競技を指し、field は競技場内での飛ぶ、投げるなどの競技である。イギリス英語では athletics と言うことも多い。	

volleyball	vo-にアクセント。	バレーボール
英語らしい音を出すコツ	vo- のoは「ア」の口をしたまま「オ」と発音するので、「ヴォ」と「ヴァ」の間ぐらいの音になる。中間のlの音も注意して出したい。ヴォリポーと聞こえるような発音が近い。	
文法的な注意事項	競技名は数えないので、a を付けることはない。	
文化的な情報、応用表現など	球技なので、play を使って表現する。テニスでバウンドさせないでボールを打つことを「ボレー」と呼ぶが、英語では volley なので、volleyball と同じである。	

weightlifting	wei-にアクセント。	ウェイトリフティング
英語らしい音を出すコツ	カタカナでは「ウ・エ・イ・ト」の4音節になるが、英語では weight-lift-ing の3音節になるように発音する。語尾の -ingは鼻に抜ける音。	
文法的な注意事項	競技名は数えないので、a を付けることはない。	
文化的な情報、応用表現など	ほかの -ing が付く競技と同様、元は動詞である。play は使わない。	

wrestling	-e- にアクセント。	レスリング
英語らしい音を出すコツ	語頭の w は発音しないが、少し口をとがらせるように意識すると r の発音が出しやすい。語尾の -ingは鼻に抜ける音。	
文法的な注意事項	競技名は数えないので、a を付けることはない。	
文化的な情報、応用表現など	ほかの -ing が付く競技と同様、元は動詞である。play は使わない。	